

安全データシート

According to JIS Z 7253:2012
改訂日 2018-4-02
版 2

1. 化学品及び会社情報

製品名	p-アセトフェネチジン
製品コード	019-00412,013-00415
CAS No	62-44-2
化学式	C ₂ H ₅ OC ₆ H ₄ NHCOCH ₃
製造者	富士フイルム和光純薬株式会社 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 Tel: 06-6203-3741 Fax: 06-6201-5964
供給者	富士フイルム和光純薬株式会社 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 電話:06-6203-3741 FAX番号:06-6203-2029
緊急連絡電話番号	試薬営業本部西日本営業部 06-6203-3741 試薬営業本部東日本営業部 03-3270-8571
推奨用途及び使用上の制限	試験研究用
社名変更のお知らせ	2018年4月1日より、和光純薬工業株式会社から富士フイルム和光純薬株式会社へ社名を変更いたしました。

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物質又は混合物の分類

急性毒性(経口)

区分4

生殖細胞変異原性

区分2

発がん性

区分1A

生殖毒性

(追加区分)

特定標的臓器毒性(単回暴露)

区分1

区分1 中枢神経系

特定標的臓器毒性(反復暴露)

区分1

区分1 腎臓, 血液

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

H302 - 飲み込むと有害

H341 - 遺伝性疾患のおそれの疑い

H350 - 発がんのおそれ

H362 - 授乳中の子に害を及ぼすおそれ

H370 - 以下の臓器に障害を生じる 中枢神経系

H372 - 長期暴露または反復暴露により以下の臓器に障害を生じる: 腎臓, 血液

注意書き(安全対策)

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。

- すべての安全予防措置を読み、理解するまでは取り扱わないこと。
- 個人用保護具を着用すること。
- 取扱い後には顔や手など、ばく露した皮膚を洗う。
- この製品の使用時には飲食、喫煙は禁止。
- 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

注意書き一(応急措置)

- ばく露した場合、医師に連絡してください。
- 飲み込んだ後に、気分が悪い場合、毒劇物センターもしくは医師に連絡してください。
- 口をすすぐ。

注意書き(保管)

- 施錠して保管。

注意書き(廃棄)

- 内容物および容器は承認された廃棄物処理場に廃棄すること。

その他

ほかの危険有害性

情報なし

3. 組成及び成分情報

純物質もしくは混合物

単一物質

化学式

C2H5OC6H4NHCOCH3

化学名	重量パーセント	分子量	化審法官報公示番号	安衛法官報公示番号	CAS番号
p-アセトフェネチジン	98.0	179.22	(3)-697	N/A	62-44-2

不純物または安定化添加剤

非該当

4. 応急措置**吸入した場合**

新鮮な空気のある場所に移すこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

すぐに石鹼と大量の水で洗浄すること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

眼に入った場合

眼に入った場合、数分間目を付けて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。

飲み込んだ場合

口をすすぐ。意識のない人の口には何も与えないこと。ただちに医師もしくは毒物管理センターに連絡すること。医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。

応急処置をする者の保護

個人用保護具を着用すること。

5. 火災時の措置**消火剤**

水スプレー(水噴霧)、二酸化炭素(CO2)、泡、粉末消火剤、砂

使ってはならない消火剤

利用可能な情報はない

特有の消火方法

利用可能な情報はない

火災時の特有危険有害性

熱分解は刺激性で有毒なガスと蒸気を放出することがある。

消火を行なう者の保護

個人用保護具を着用すること。消防士は自給式呼吸器および消火装備を着用する必要がある。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を待避させる。

環境に対する注意事項

漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。

回収、中和

利用可能な情報はない

二次災害の防止策

環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

強酸化剤との接触を避ける。局所排気装置を使用すること。

注意事項

容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。使用後は容器を密閉する。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

安全取扱注意事項

皮膚、眼、衣服との接触を避ける。個人用保護具を着用すること。粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

保管

安全な保管条件

保管条件

容器は遮光し、換気の良いなるべく涼しい場所に密閉して保管する。

安全な容器包装材料

ポリエチレン

混触禁止物質

強酸化剤

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する

ばく露限界

この供給された製品は地域の特定取締機関によって発行された職業ばく露限界値のある有害危険物を含有していない。

保護具

呼吸器用保護具

防塵マスク

手の保護具

保護手袋

眼の保護具

側板付き保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡)

皮膚及び身体の保護具

長袖作業衣, 保護長靴

適切な衛生対策

産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱う。

9. 物理的及び化学的性質

形状

色
性状

白色
結晶～結晶性粉末

臭い	データなし
pH	中性(水溶液)
融点・凝固点	133-138 °C
沸点, 初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
蒸発速度	データなし
燃焼性(固体、ガス)	データなし
燃焼又は爆発範囲	
上限:	データなし
下限:	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重・密度	データなし
溶解性	エタノール: やや溶けやすい。ジエチルエーテル: 溶けにくい。水: 極めて溶けにくい。
n-オクタン/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
粘度(粘性率)	データなし
動粘度	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

安定性 光により変質するおそれがある。
 反応性 データなし

危険有害反応可能性
 通常の処理ではなし。

避けるべき条件
 高温と直射日光

混触危険物質
 強酸化剤

危険有害な分解生成物
 一酸化炭素(CO), 二酸化炭素(CO₂), 窒素酸化物(NO_x)

11. 有害性情報

急性毒性

化学名	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50
p-アセトフェネチジン	1650 mg/kg (Rat)	N/A	N/A

化学名	急性毒性(経口)分類根拠	急性毒性(経皮)分類根拠	急性毒性(吸入-ガス)分類根拠
p-アセトフェネチジン	ラットのLD50として2件のデータ [1650 mg/kg(環境省リスク評価書第3巻(2004))および約4000 mg/kg(IARC 24(1980))] があり、1件が区分4、1件が区分外に該当することから、危険性の高い方の区分を採り区分4とした。	データなし。	GHSの定義による固体である。

化学名	急性毒性(吸入-蒸気)分類根拠	急性毒性(吸入-粉塵)分類根拠	急性毒性(吸入毒性-ミスト)分類根拠
p-アセトフェネチジン	データなし。	マウスLC50値として33.9 mg/L(環境省リスク評価 第3巻(2004))が得られているが、ばく露時間が不明のため分類できない。	マウスLC50値として33.9 mg/L(環境省リスク評価 第3巻(2004))が得られているが、ばく露時間が不明のため分類できない。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

化学名	皮膚腐食性、刺激性分類根拠
p-アセトフェネチジン	データなし。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

化学名	重篤な眼損傷性分類根拠
p-アセトフェネチジン	データなし。

呼吸器感受性又は皮膚感受性

化学名	呼吸器および皮膚感受性分類根拠
p-アセトフェネチジン	呼吸器感受性: データなし。 皮膚感受性: データなし。

生殖細胞変異原性

化学名	変異原性分類根拠
p-アセトフェネチジン	マウスに経口または腹腔内投与、およびラットに経口投与による骨髄または末梢血を用いた小核試験(体細胞in vivo変異原性試験)において、それぞれ陽性の報告(IARC 100A (2011))があり区分2とした。なお、マウスの腎臓およびラットの膀胱の細胞を用いたDNA損傷試験(体細胞in vivo遺伝毒性試験)でも陽性(IARC 100A (2011))が報告されている。一方、in vitro試験としては、エームス試験で陰性と陽性の両方の結果(NTP DB (Access on Aug. 2011)、IARC 24 (1980))があり、マウスリンフォーマ試験で陰性(NTP DB (Access on Aug. 2011))、チャイニーズハムスターの培養細胞を用いた染色体異常試験では陽性(IARC 100A (2011))の報告がある。

発がん性

化学名	発がん性分類根拠
p-アセトフェネチジン	IARCの発がん性評価におけるグループ1の分類(IARC 100A (2011))に基づき1Aとした。なお、なお、NTPではR(NTP RoC (12th, 2011))、EPAではB2(HSDB (2011))にそれぞれ分類されている。ヒトの場合、本物質を含む鎮痛剤を多量に使用してきた患者で腎盂や尿管に腫瘍の発生をみた症例報告は多数あり(IARC 100A (2011))、また、疫学研究において本物質を含む薬剤の規則的使用と関連し、腎盂・尿管の癌の相対危険度の著しい増加がみられ、本物質の消費量増加とリスクの増加は統計学的に有意な用量反応関係を示した(IARC 100A (2011))と報告されている。さらに、動物試験においてもラットに混餌投与により腎臓と膀胱でがん発生率の増加(環境省リスク評価 第3巻 (2004))が報告されている。

化学名	NTP	IARC	米国産業衛生専門家会議(ACGIH)	日本産業衛生学会
p-アセトフェネチジン 62-44-2	Known Reasonably Anticipated	Group 1		

生殖毒性

化学名	生殖毒性分類根拠
p-アセトフェネチジン	ヒトの疫学調査でモニターした50282組の母子のうち、5546組が妊娠前期(1/3期)に本物質のばく露を受けており、頭蓋骨癒合(6例)、副腎症候群(5例)、肛門閉鎖(7例)、副脾(5例)などの異常や欠陥などが報告されているが、統計学的有意差が不明で、個別の確認が必要である(HSDB (2009))と記載されている。動物試験では、雌ラットの妊娠0~20日に経口投与した試験において投与群で妊娠率の低下がみられた(環境省リスク評価 第3巻 (2004))と記載があるが、この知見は古く(1965年)、詳細も不明である。その他に情報もなく、以上から、性機能、生殖能および子の発生に対する影響についてはデータ不足により「分類できない」とした。一方、本物質はヒトで乳汁中移行することが知られており(HSDB (2009))、乳児にメトヘモグロビン血症が現れたとの報告もあり授乳中の婦人に投与する場合には授乳を中止させる(メーカー医薬品情報)との記載もあるため「追加区分: 授乳に対するまたは授乳を介した影響」とした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

化学名	特定標的臓器毒性(単回ばく露)分類根拠
p-アセトフェネチジン	本物質には鎮痛作用の他にも、緊張の緩和、不安除去等の中枢神経系に対する作用がある(環境省リスク評価 第3巻 (2004))と述べられ、本物質またはアスピリンの過量投与により、痙攣、昏睡、循環虚脱、呼吸不全、死亡を起こす可能性があり、そのような中枢神経系への影響について平均量以上の投与ではこれまで報告さ

	れてきている(NTP TR 67 (1978))との記述に基づき、区分1(中枢神経系)とした。
--	---

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

化学名	特定標的臓器毒性(反復ばく露)分類根拠
p-アセトフェネチジン	本物質は解熱鎮痛剤として使用されていたが、濫用対策として供給停止が要請され、自主的な供給停止が行われた経緯があるが、オーストラリアで本物質濫用者の疫学調査で認められた高率(56.5%)の腎乳頭壊死の発生(環境省リスク評価 第3巻(2004))に加え、スイスで10年以上にわたり本物質を服用した女性における泌尿器系あるいは腎臓疾患による死亡率の有意な増加(環境省リスク評価 第3巻(2004))、アメリカで鎮痛剤の使用状況調査の結果、腎疾患リスクが本物質常用者で最も高かった(環境省リスク評価 第3巻(2004))ことなど、ヒトで本物質ばく露による腎臓への悪影響を示す多くの報告があり、区分1(腎臓)とした。また、本物質の副作用として血小板減少、溶血性貧血、胃・十二指腸出血の記載(環境省リスク評価 第3巻(2004))があり、慢性的濫用により中毒や死亡とともに貧血も高頻度に見られ(HSDB(2009))、本物質を含む製剤を10年間服用し続けた40歳女性がチアノーゼを伴うスルフヘモグロビン血症を誘発したとの症例報告(HSDB(2009))もあり、区分1(血液)とした。なお、動物試験で雄ラットに2g/kg/weekを220日間経口投与した試験で、176日目に80%が無精子症になった(環境省リスク評価 第3巻(2004))との報告があるが、区分2のガイダンス値を超えた用量であるため分類根拠として採用しなかった。

吸引性呼吸器有害性

化学名	吸引性呼吸器有害性分類根拠
p-アセトフェネチジン	データなし。

12. 環境影響情報

生態毒性 利用可能な情報はない

その他のデータ

化学名	水生環境有害性(急性)分類根拠	水生環境有害性(慢性)分類根拠
p-アセトフェネチジン	データなし	データなし

残留性・分解性 利用可能な情報はない
 生体蓄積性 利用可能な情報はない
 土壌中の移動性 利用可能な情報はない
 オゾン層への有害性 利用可能な情報はない
 移動性

13. 廃棄上の注意**残余廃棄物**

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

汚染容器及び包装

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

14. 輸送上の注意

ADR/RID(陸上) 規制されていない。
 国連番号 -
 品名
 国連分類
 副次危険性
 容器等級
 海洋汚染物質 非該当

IMDG(海上)	規制されていない。
国連番号	-
品名	
国連分類	
副次危険性	
容器等級	
海洋汚染物質	非該当
MARPOL73/78やIBCコードに則つたバルクの輸送	利用可能な情報はない
IATA(航空)	規制されていない。
国連番号	-
品名	
国連分類	
副次危険性	
容器等級	
環境有害物質	非該当

15. 適用法令

<u>国際インベントリー</u>	
EINECS/ELINCS	収載
TSCA	収載
<u>国内法規</u>	
消防法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
労働安全衛生法	非該当
危険物船舶運送及び貯蔵規則	非該当
航空法	非該当
PRTR法	非該当
輸出貿易管理令	非該当

16. その他の情報

引用文献および参照ホームページ等	NITE: 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html IATA危険物規則書 RTECS: Registry of Toxic Effects of Chemical Substances 中央労働災害防止協会 GHSモデルSDS情報 有機合成化学辞典(社) 有機合成化学協会 講談社サイエンティフィック 化学大辞典 共立出版 等
------------------	---

免責事項

このSDSはJIS Z 7253:2012に準拠しております。記載内容は通常の取扱を対象としたものであって他の物質と組み合わせるなど特殊な取扱いをする場合は使用環境に適した安全対策を実施の上ご利用ください。改訂日における最新の情報に基づいて作成されておりますが、すべての情報を網羅しているものではありませんので新たな情報を入手した場合には追加又は訂正される場合があります。また、安全な取扱い等に関する情報提供を目的としておりますので物性値や危険有害性情報などは製品規格書等とは異なりいかなる保証をなすものではありません。全ての製品にはまだ知られていない危険性を有する可能性がありますので取り扱いには十分ご注意ください。

GHS分類はJIS Z7252(2014)に準拠している。*JIS: 日本工業規格

製品についてのご案内	新社名へ切替を行う間、旧社名のラベル表示がある製品がお手元に届く場合がございます。
------------	---

以上